

社会ネットワークの力を解明する

■研究概要

人々のつながりからなる社会ネットワークについて、社会ネットワークがもたらすさまざまな効果や、社会ネットワークの形成・変容のプロセス、そしてまた、社会ネットワークそのものの測定法などについて研究しています。つまるところ、社会ネットワークに何らかの関係があるテーマであれば何でも研究対象となります。(逆に、社会ネットワークに何も関係がないテーマというものもあまりありません。)

そのため、「研究テーマ」は、下記のように多岐にわたっています。既存の研究領域に社会ネットワークの視点を持ち込むことで面白い発見ができないかと考えてきたためです。最近では、また新しい領域に首を突っ込みたいなど、あれこれ考えています。

●Keywords

社会ネットワーク、信頼、協力格差、調査法、分析法

■研究テーマ

1. 社会ネットワークと協力行動

小集団における社会ネットワークにおいて、信頼関係が推移的である程度が高いほど、集団内における協力行動が現れやすいことを明らかにしました(文献A)。この知見をワッツのスマールワールド・ネットワークのシミュレーションを応用して拡張し、社会全体における協力が成立する条件を求めました(文献B)。

2. 地域社会のネットワークと震災からの復旧・復興の成否

新潟県中越地震(2004年10月)の生じる前と後とで同じ人々を対象としたパネル調査を行い、震災の前後で、社会ネットワークが

社会・マスメディア系専攻
社会ネットワーク研究室 教授

つじ りゅうへい

辻 竜平

r_tsuji@socio.kindai.ac.jp



最終学位：Ph.D. (Social Science),
University of California, Irvine

どのように変化したか、他者に対する信頼感がどのように変化したか、そして、社会ネットワークと他者への信頼感がどのように共変したかについて検討しました(文献C)。東日本大震災の直後には、その調査結果をもとに、被災住民の人々に向けて提言を行いました(文献D)。

3. 社会ネットワークが地域や個人の格差の縮小(拡大)にもたらす効果

「格差社会」と言われて久しいですが、個人間の格差は、個々人に起因するものも、自治体の支援の差から間接的にもたらさせるものもあります。このような格差に対して、社会ネットワークは、それを縮小する効果があるかどうかを総合的に検討しました(文献E)。

また、地域社会のネットワークが犯罪の抑制に役立つかについても検討しました(文献 F)。さらには、ある職業に就いている人を知っていることで、その職業に対する評価が上がるという効果(ネットワークによるサポート効果)があるかどうかを検討しました(文献 G)

・安曇野の美術館・博物館の巡り方の、安曇野市民と観光客との違い(文献 H)
・口承文芸(「三枚のお札」)のヴァリエーションと通婚圏との関係(文献 I)
・「集団的自衛権」の支持者の分析(文献 J)など。

4. その他

●文献(これまで書いたものの抜粋)

- A) 辻竜平, 2000, 「集団における信頼関係の構造化と集団内秩序の変化」, 『理論と方法』15(1): pp.197-208.
- B) 辻竜平・針原素子, 2003, 「『小さな世界』における信頼関係と社会秩序」, 『理論と方法』18(1): pp.15-31.
- C) 辻竜平・針原素子, 2008, 「新潟県中越地震におけるパーソナル・ネットワークと一般的信頼の変化: 震災前後のパネル調査を用いて」, 『社会学研究』84: pp.69-102.
- D) 辻竜平, 2011, 『中越地震被災地研究からの提言: 未来の被災地のために』, ハーベスト社. 全 102 頁.
- E) 辻竜平・佐藤嘉倫編著, 2014, 『ソーシャル・キャピタルと格差社会: 幸福の計量社会学』, 東京大学出版会. (第 13 回日本 NPO 学会優秀賞)
- F) 高木大資・辻竜平・池田謙一, 2010, 「地域コミュニティによる犯罪抑制: 地域内の社会関係資本および協力的行動に焦点を当てて」, 『社会心理学研究』26(1): pp.36-45. (第 13 回日本社会心理学学会奨励論文賞)
- G) 辻竜平, 2018, 「社会関係資本が職業評定に与える効果」『理論と方法』63: pp.94-113.
- H) 辻竜平, 2013, 『安曇野市の美術館・博物館利用に関わる調査: 市民と観光客に対する調査の比較分析』(受託研究報告書)
- I) 辻竜平, 2015, 「口承文芸のヴァリエーションの類似性と通婚圏との関係: 新潟県旧栃尾市で採取された「三枚のお札」の分析」, 『信州大学人文科学論集』2: pp.67-79.
- J) 辻竜平, 2017, 「誰が『集団的自衛権』を容認したのか: 2014 年松本市調査と 2015 年長野県調査の比較」, 『信州大学人文科学論集』4: pp.65-83.

▲趣味

クラシック音楽: 最近, サイレント機能付きのピアノを買いました. ヘッドホンを着けて指の運動をしてリハビリに励んでいます. 昔やっていた曲が再び弾けるようになるように頑張っています.

ショッピング: 街をぶらぶら見て回るのが好きです. パッと目が合ったものを縁と思って買うことが多いです.

子どもとお出かけ: 週末などに幼い愛娘と愛妻とあちこちお出かけするのが楽しみです.

◆ゼミの内容

ゼミのテーマは, 社会ネットワークの効果や格差社会などを取り上げています. また, ゼミと他の科目を連動させながら, 調査法や統計学といった卒業後にも活かせる「基礎力」をつけてもらうことを高次の目標としています. こうして, 「世界のどこでもたくましく生きていける人」を作りたいと思っています.